

プロジェクト「TOUKA I-O」に関するアンケートの集計結果

(建築安全推進課)

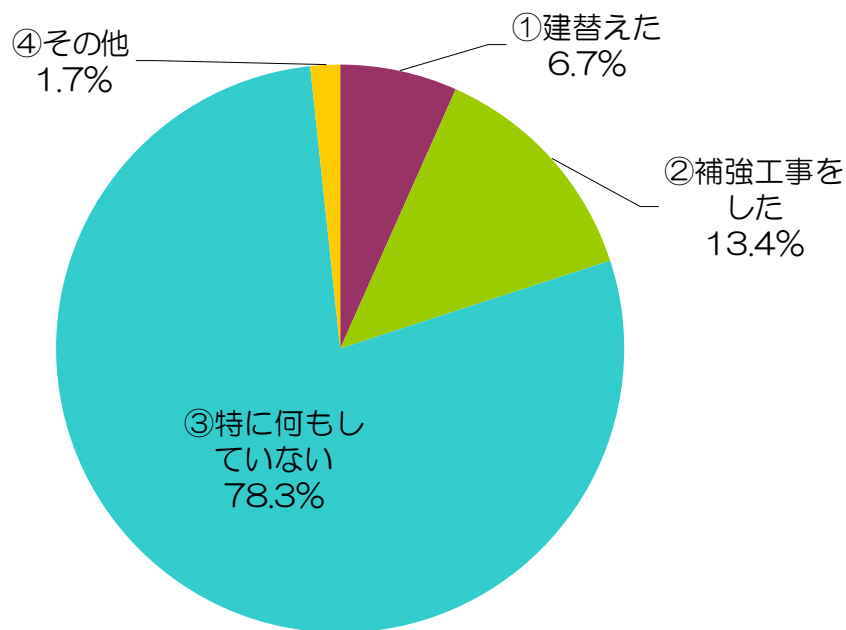
I アンケート概要

耐震診断を実施し、住宅の耐震性が低いと診断された方に対して、耐震補強を実施しない理由についてフォローアップアンケート調査を行った。

平成 22～24 年度に「わが家の専門家診断」を受診した方のうち、「木造住宅耐震補強助成事業」の申請が無かった 6,341 名の方を対象に、アンケートを送付し、回答数は 2,111 名（回収率 34.2%）であった。

II アンケート結果

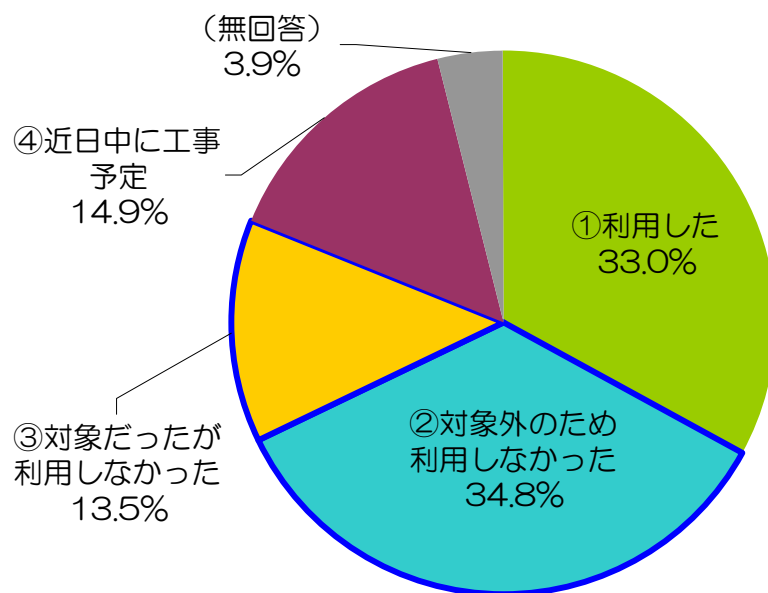
設問1 専門家による無料診断の後に、住宅の耐震化を行いましたか。



全体の2割の方が「①建替えた」「②耐震補強工事を行った」と回答した。「③特に何もしていない」と回答したのは、約8割。残りは、転居した又は現在空き家になっているため「④その他」と回答した。

設問1で「②耐震補強工事を行った」と回答された方への質問

設問2 耐震補強工事にあたり、お住まいの市町の補助制度を利用されましたか。



《②対象外のため利用しなかった理由》

理 由	回答人数 [人]	割合 [%]
評点 1.0 以上にならない耐震補強工事だったため (資金面の制限など)	36	36.7
混構造、増築等のため	6	6.1
静岡県耐震診断補強相談士のいない業者に依頼したため	4	4.1

《③対象だったが利用しなかった理由》

理 由	回答人数 [人]	割合 [%]
補助申請手続きが面倒、時間がかかるため	17	44.3
補助制度をよく知らなかったため	8	21.1

設問1で「③特に何もしていない」と回答された方への質問

設問3 建替えや耐震補強工事を行わない理由をお聞かせください。
(自由回答)

理 由	回答人数 [人]	割合 [%]
資金不足のため (年金生活、介護や学費等で出費が多い)	800	48.6
建替えや転居を検討しているため	185	11.2
耐震補強効果が疑問である、津波による被害は防げない	166	10.1
跡継ぎがないため、余生がないため	153	9.3
一部耐震改修をしたため (屋根軽量化、基礎補修、耐震シェルター)	106	6.4
評点 1.0 以上だったため 専門家から大丈夫だろうと言われたため	100	6.1
業者や工法の選定が難しいため 補強工事による環境の変化が不安である	96	5.8
既にリフォームをしており、これ以上手を入れたくない	96	5.8
その他(家族構成の変化が予想される、診断が信用できないなど)	295	17.9
補強工事を行う意思がある	230	14.0

※複数回答あり。

※割合は、設問1で「③特に何もしていない」と回答した数に対する数。

設問4 木造住宅の耐震化を進めるために課題やご提案がありましたら、ご意見をお聞かせください。

内 容	回答人数 [人]
補助額を増やしてほしい	49
耐震補強後の評点が 1.0 に満たない工事でも補助をしてほしい	18
混構造でも補助の対象にしてほしい	10
収入や評点を基準に応じて補助額を決めてほしい	6
耐震補強工事に対する補助額を定額でなく、 補助率（3割負担など）にしてほしい	3

Ⅲ 考察

今後、設問1で「特に何もしていない」と回答した方に対して耐震補強工事の実施を促すことが重要となる。

また、既に補強工事を行った方からは「担当者と直接話をして、工事をやる気になった。」という意見もあり、設問3で「補強工事の意思がある」と回答した方へは戸別訪問を行うなど、直接アプローチしていくことが有効と考える。